

センチュウの同定法学ぶ

東南アジア研究者 白浜の京大実験所

世界の学者らが参加し

て沿岸の生物を調査、研究する「NaGISA (ナギサ)プロジェクト」の一環として、白浜町の京都大学瀬戸臨海実験所(所長＝白山義久教授)で20～25日、東南アジアの研究者が集まり、海産センチュウの同定方法を

を学んだ。

ベトナムやフィリピン、マレーシア、タイからセンチュウ研究者8人が参加。それぞれの国で採集した、寄生せずに自由生活するセンチュウを持ち寄った。体長は1ミリ前後。白山教授やスミソニアン博物館(米国)のアシユレイ・スマイス学芸員の指導で同定作業を進めた。中には白山教授らに分からない、新種の可能性もあるセンチュウ

もあった。

ナギサプロジェクトは、白山教授が世界に呼び掛け2001年から始まった。日本財団が助成し、世界規模で海洋生物の多様性を調査研究している。8月にはインドネシアで国際会議を開く予定。

研修成果を発表する
研究者(白浜町臨海
で)

